

JJ-WOODⅡ (二層構造人工木)

取付説明書

人工木デッキ

- このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
- この取付説明書の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。内容を良くご理解いただき、本書の内容(指示)にしたがってください。



INDEX

施工を始める前に	2	2 床板の施工	
各部の名称・部材数量の確認	3	【1】床板の取付け	10
規格寸法図	4	【2】最終床板の取付け	11
施工方法		3 幕板の施工	
1 束柱・大引の施工		【1】幕板マーキング	11
【1】基礎の施工	7	【2】幕板下穴加工	11
【2】束柱の加工	7	【3】幕板の取付け	11
【3】幕板固定金具の取付け	8	【4】幕板コーナーキャップの取付け	11
【4】束柱の取付け	9	人工木材の特性と使用上のご注意	12
【5】束柱の固定	9	お手入れ方法とメンテナンス	12

◆施工を始める前に◆

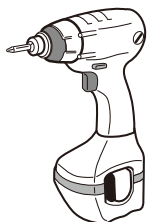
- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 本製品は一般住宅の一階相当分施工用です。それ以外の場所への取付けはしないでください。

- ①部材変形防止のため、製品保管状況を確認してください。
 - ・当製品は、木粉入り高密度樹脂製のため、熱変形することがあります。取扱いには十分注意してください。
 - ・平らな場所に平置きしてください。栈木の上に乗せると、反りが発生する場合があります。
 - ・暖房機や焚き火近くの高温になる場所には保管しないでください。
 - ・製品の上に重量物を長時間重ね置きしないでください。
- ②設置場所を確認してください。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。
 - 熱排気による部材の変形・劣化のおそれがあります。
- ③人工木は表面に研磨加工処理を施してありますので、部材の施工方向によっては色調に濃淡がでます。
- ④正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- ⑤製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- ⑥施工プランと必要部材が揃っているか確認してください。
- ⑦市販の研磨紙を利用する際は、#24～40のサンドペーパーを用いてください。
- ⑧施工業者様は施工後、取付説明書を施主様にお渡しください。
- ⑨取付説明書は大切に保管し、必要な時にお読みください。

〈組立・施工に必要な道具〉

●電動ドライバー

インパクトドライバーをお勧めします。



ビス止の時はビット



下穴を開ける時はドリル刃



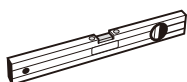
Φ 3mm
Φ 5mm

●軍手・皮手袋等

電動ドライバーをご使用の際は、巻き込まれる危険がありますので軍手などを使わず素手でお使いください。

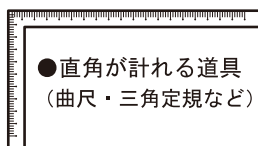


●水準器(水平器)



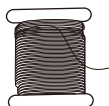
デッキの水平レベル出しをする時使います。

●メジャー ●カッター



●直角が計れる道具
(曲尺・三角定規など)

●水糸



※水糸をはる時に必要な適宜な資材もご準備ください。

■基礎について

デッキを設置する場所がコンクリート等では無い場合は、基礎石を設置し水平レベル出しをしてください。(P7 参照)



注意

基礎石設置の作業が不十分だったり水平レベル出しをせず取付けをしますと、基礎石の浮きが発生する可能性があります。製品変形の恐れがあります。

◆施工前に必ず、部材数量をお確かめください。

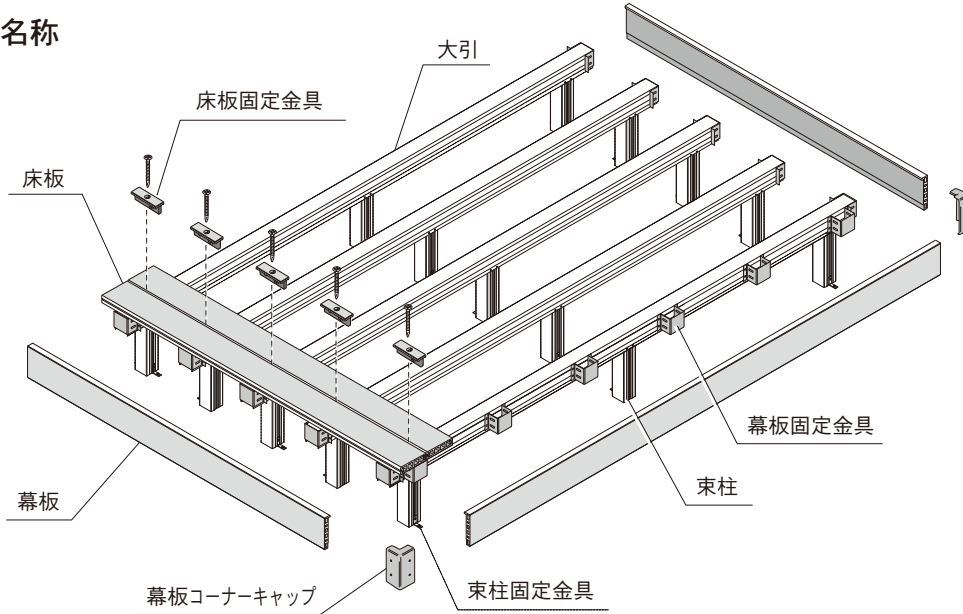
※ご面倒でも組立を始める前に部材の数量をご確認ください。

万一、不足している部材などがございましたら、施工前にご購入店にご連絡ください。

※部材に破損などがございましたら、施工前にご購入店にご連絡ください。

※施工開始後のご連絡ですと、ご対応に時間を要する為、施工が中途になってしまいますがご了承ください。

■各部の名称

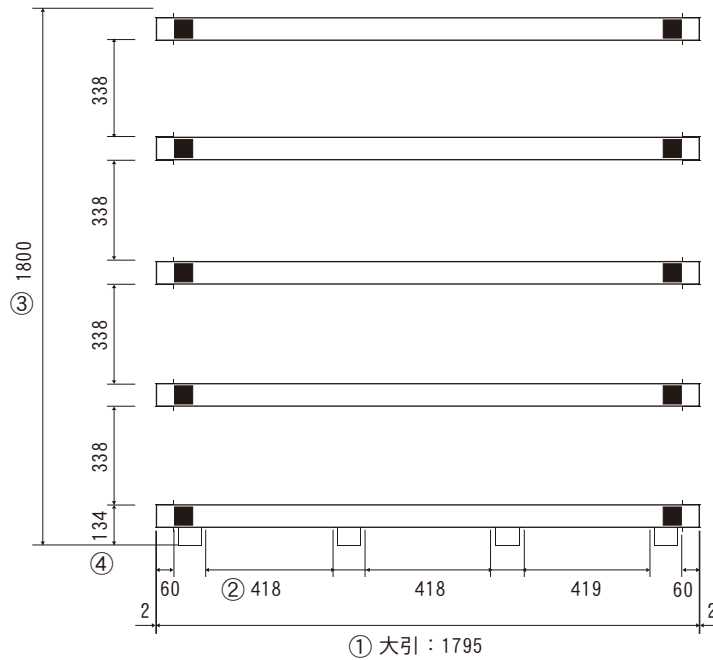


■部材数量の確認

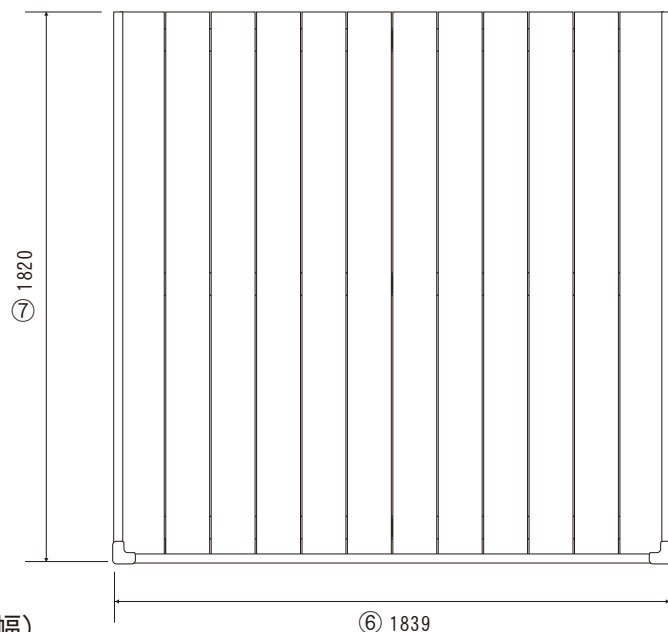
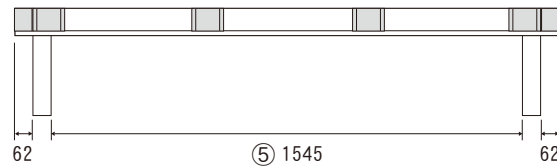
略 図	呼 称	サイズ	1.0間×6尺	1.5間×6尺	1.5間×9尺
			数量	数量	数量
	床板1800	145×30×1800mm	12	18	—
	床板2700	145×30×2700mm	—	—	18
	幕板1790	145×30×1790mm	3	2	—
	幕板2690	145×30×2690mm	—	1	3
	大引1795	74×90×1795mm	5	—	—
	大引2695	74×90×2695mm	—	5	7
選択部材 	固定束柱280	65×65×280mm	10	15	21
	調整束柱2848	65×65mm ※調整長さ280～480mm			
	幕板固定金具 ねじ入	105×60×75mm	14	16	20
	床板固定金具1004 (10入) ねじ入	40×16×16.6mm	6	9	12
	幕板コーナーキャップ ねじ入	75×75×152mm	2	2	2
	幕板下穴L字治具 ねじ入	18×15×120mm	1	1	1

規格寸法図 仕上サイズ：1.0間(1839mm)×6尺(1820mm)

基本構造

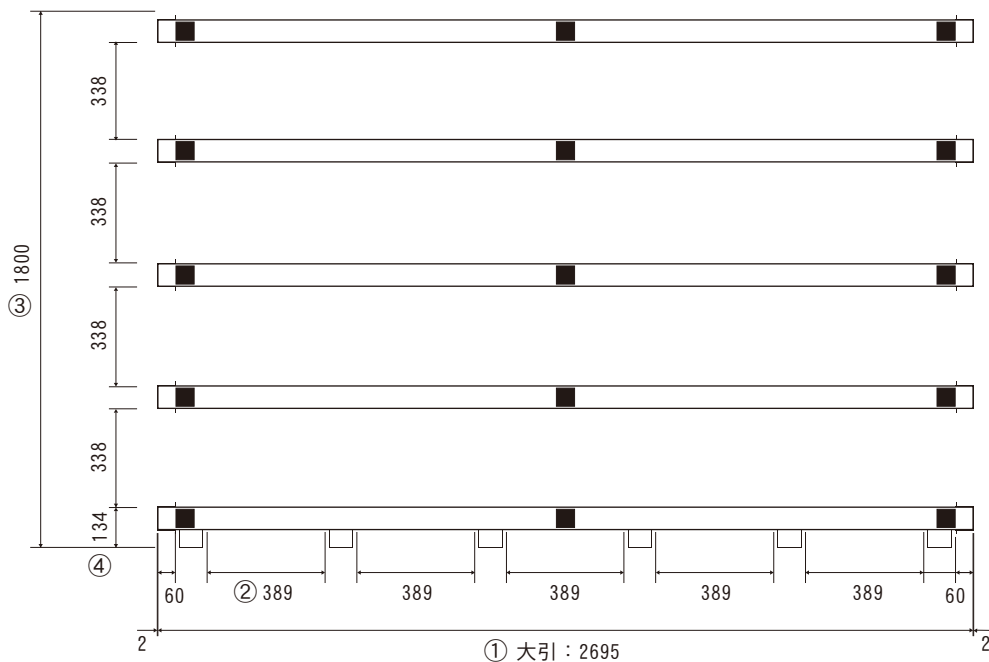


- ①大引サイズ
- ②正面幕板固定金具位置
- ③床板サイズ
- ④大引間隔
- ⑤横幅面束柱位置

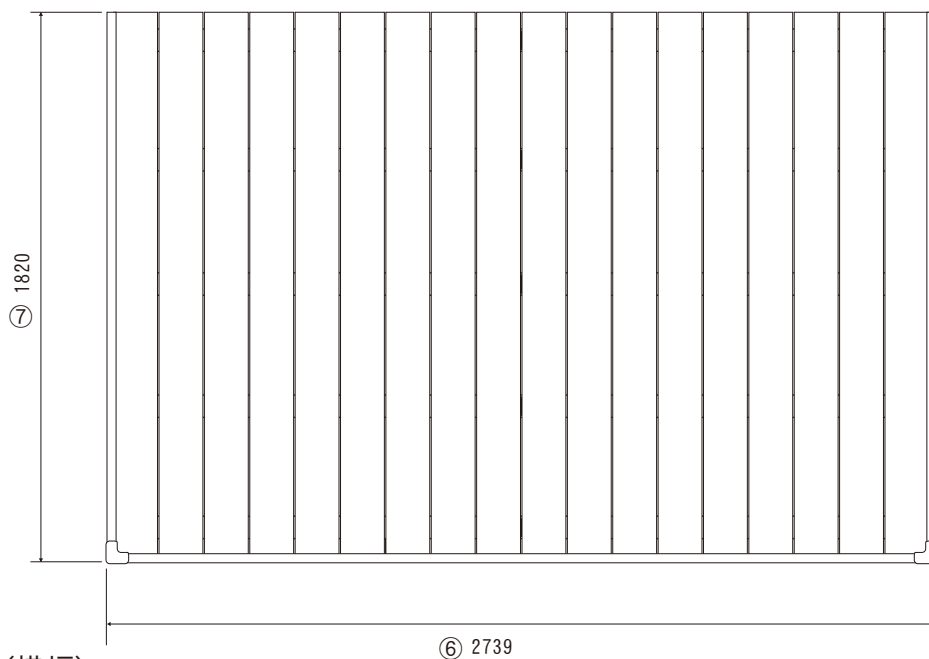
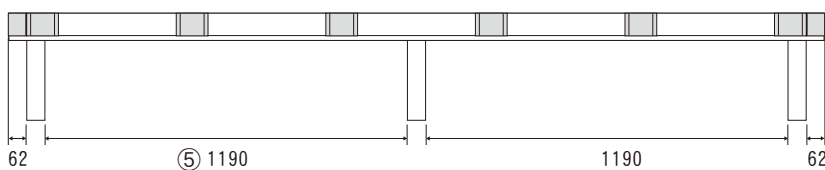


- ⑥デッキ仕上サイズ(横幅)
- ⑦デッキ仕上サイズ(出幅)

規格寸法図 仕上サイズ：1.5間(2739mm)×6尺(1820mm)

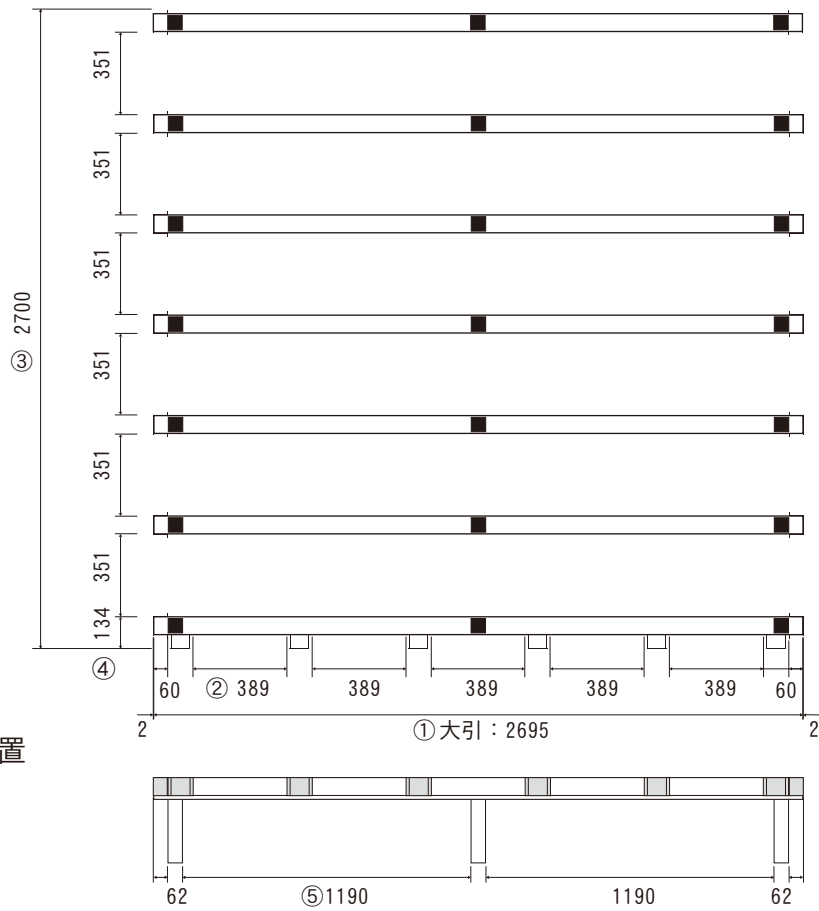


- ①大引サイズ
- ②正面幕板固定金具位置
- ③床板サイズ
- ④大引間隔
- ⑤横幅面束柱位置

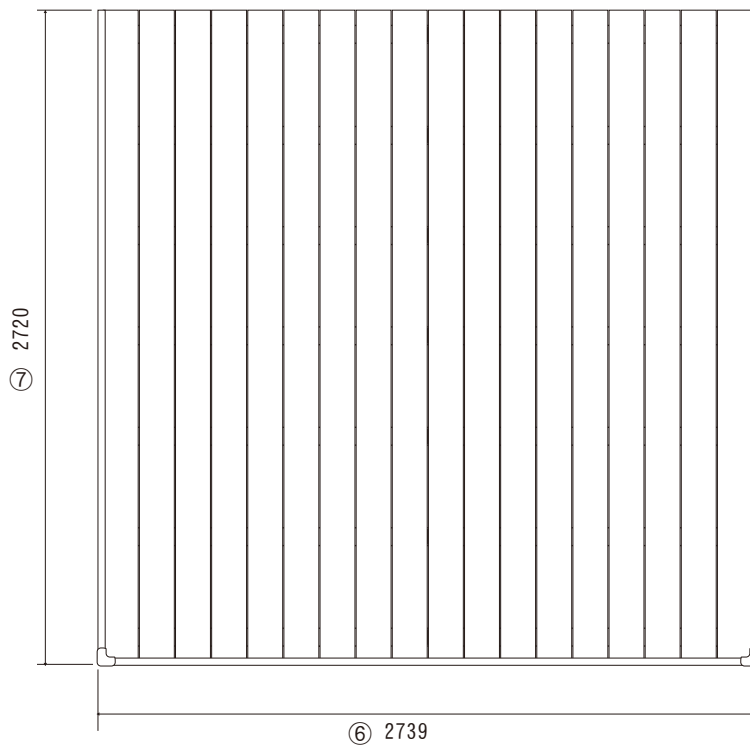


- ⑥デッキ仕上サイズ(横幅)
- ⑦デッキ仕上サイズ(出幅)

規格寸法図 仕上サイズ：1.5間(2739mm)×9尺(2720mm)



- ①大引サイズ
- ②正面幕板固定金具位置
- ③床板サイズ
- ④大引間隔
- ⑤横幅面束柱位置

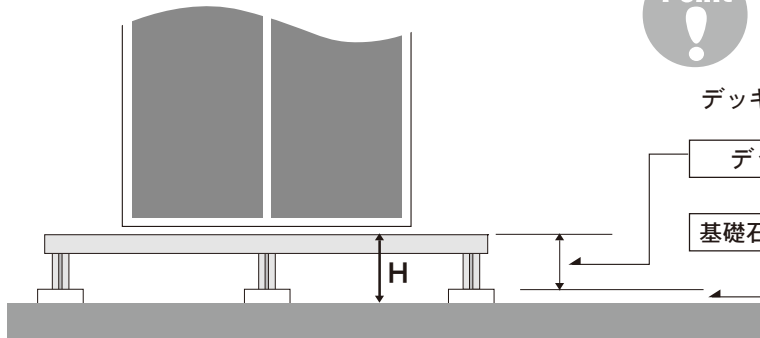


- ⑥デッキ仕上サイズ(横幅)
- ⑦デッキ仕上サイズ(出幅)

はじめに

この取付説明書は、
1.5間6尺のデッキで図解しております。

最初に H寸法 (床面高さ) を決定してください。



設置する場所が窓際の場合は、窓の高さとデッキの高さをご確認ください。

デッキの高さ + 基礎石などの厚み = **H床面高さ**

デッキの高さ

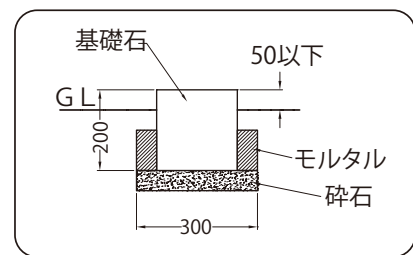
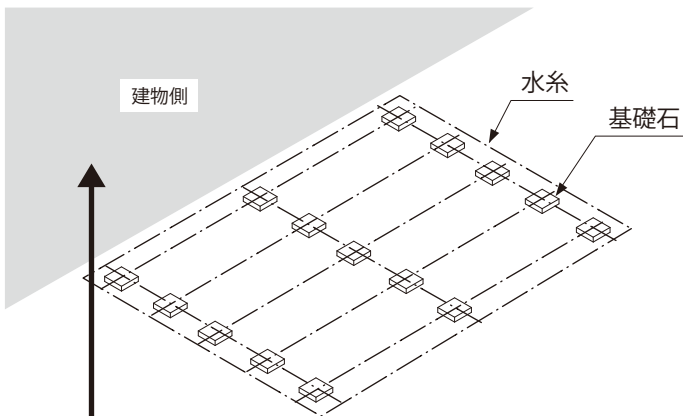
基礎石などの厚み

- ◆ 束柱 L280 をご利用の場合 385mm
- ◆ 調整束柱 2848 をご利用の場合 385~585mm

1 束柱・大引の施工

【1】基礎の施工

※基礎石をモルタルで固める施工をお奨めいたします。
4~6P規格寸法図を参照して、前面・両側面の
水糸に寸法出しをし基礎石の位置を決定してください。



①指定位置に穴を掘り、砕石を敷いて突き固めてください。



この作業が十分でないと、基礎のひずみが発生する場合があります。

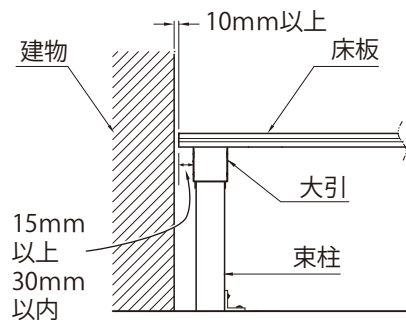
②基礎石を設置し、レベルを出してください。

③基礎石のまわりをモルタルで固めてください。



モルタルで基礎を固めないと、基礎の浮き沈みが発生する場合があります。

建物側 通常納まり:10mm以上

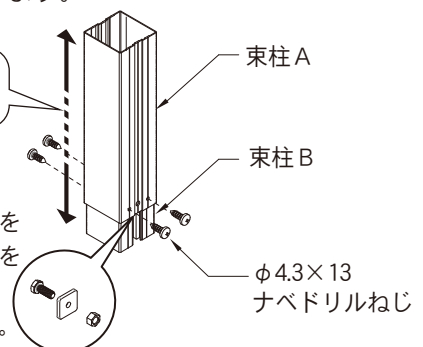


【2】束柱の加工

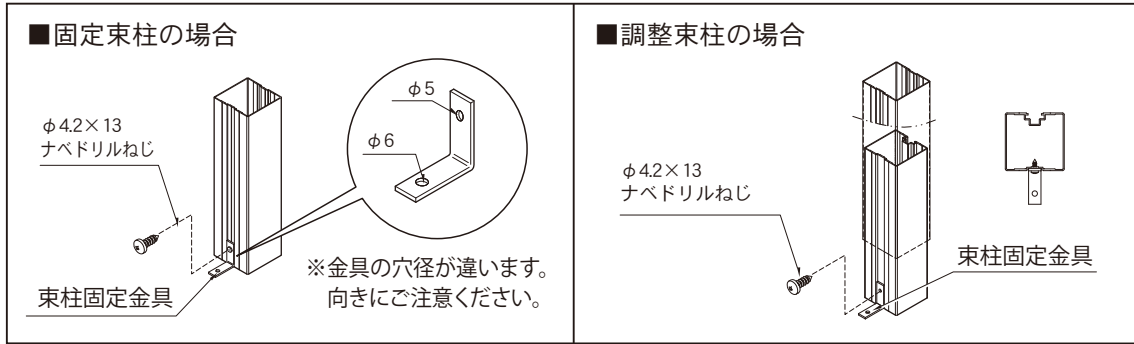
①調整束柱 L2848 をご利用の場合は、
デッキ高さに合わせて
長さの調整をします。

調整範囲
L 280 ~ 480mm

ナットを緩め高さを調整し、水平直角を確認してから
ねじで固定します。



②束柱に束柱固定金具を取付けます。

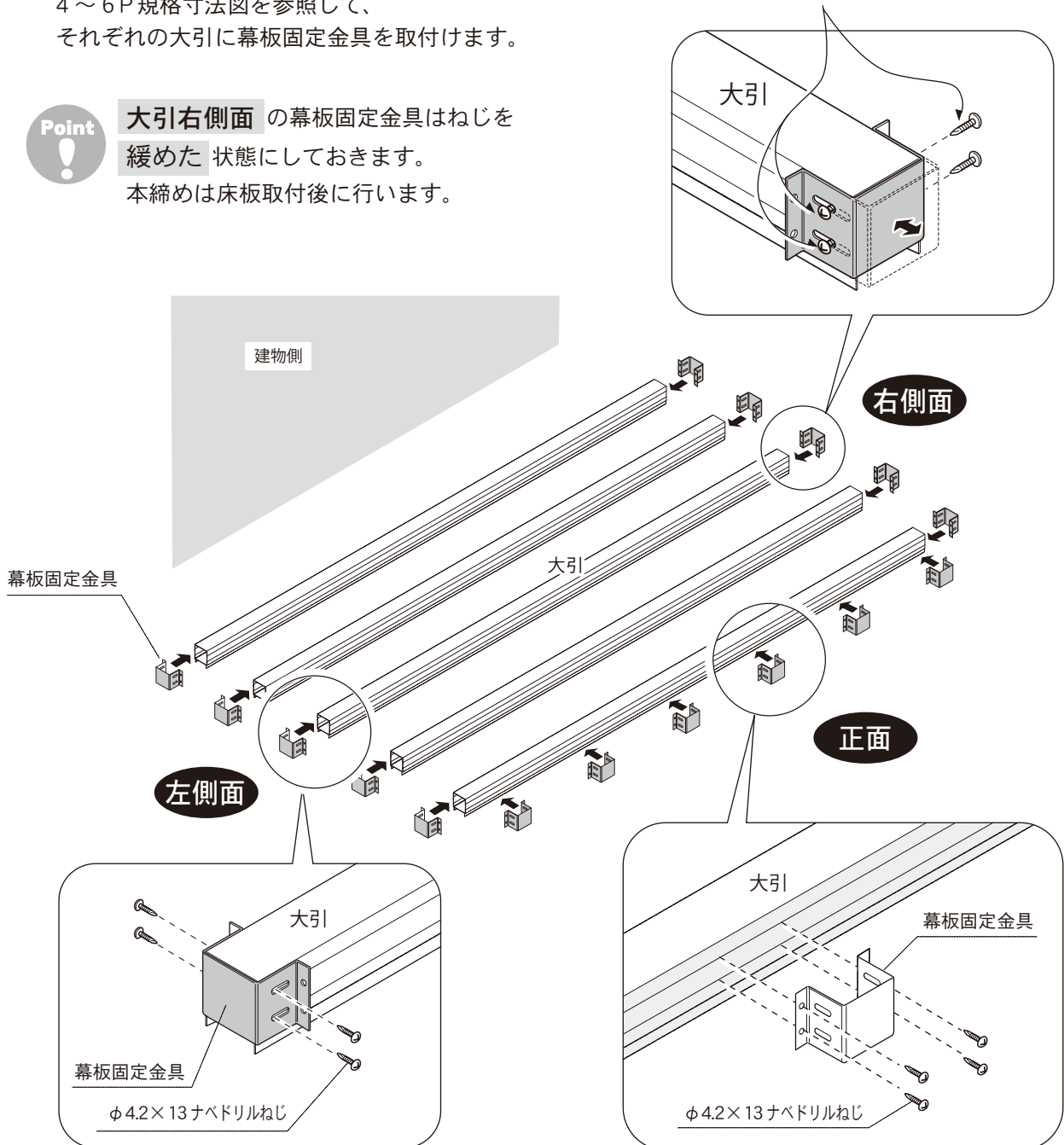


【3】幕板固定金具の取付け

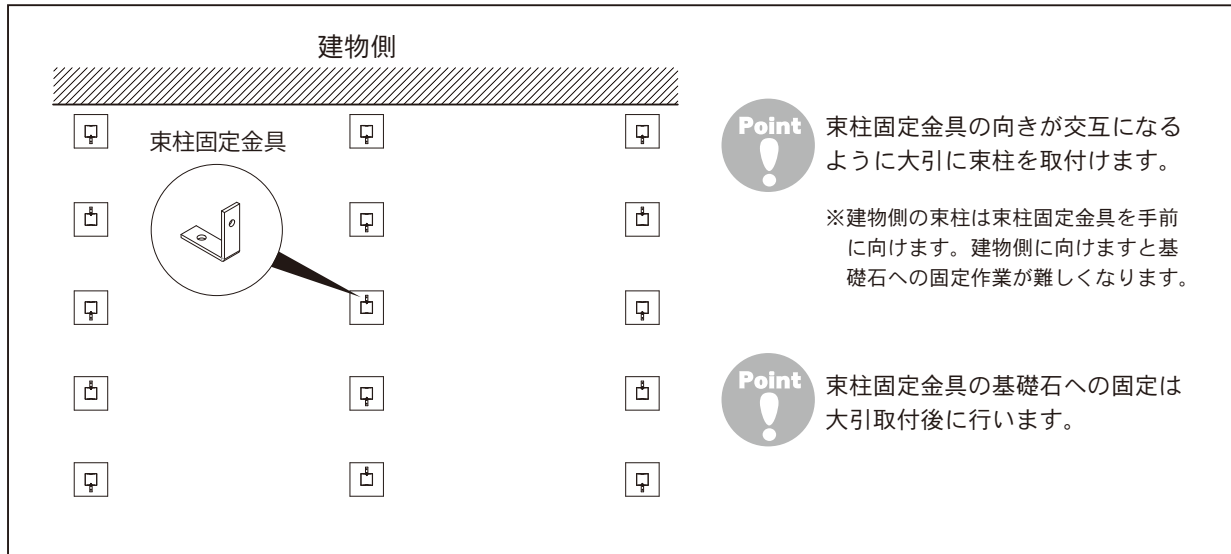
4～6P規格寸法図を参照して、
それぞれの大引に幕板固定金具を取付けます。

Point **大引右側面** の幕板固定金具はねじを
緩めた状態にしておきます。
本締めは床板取付後に行います。

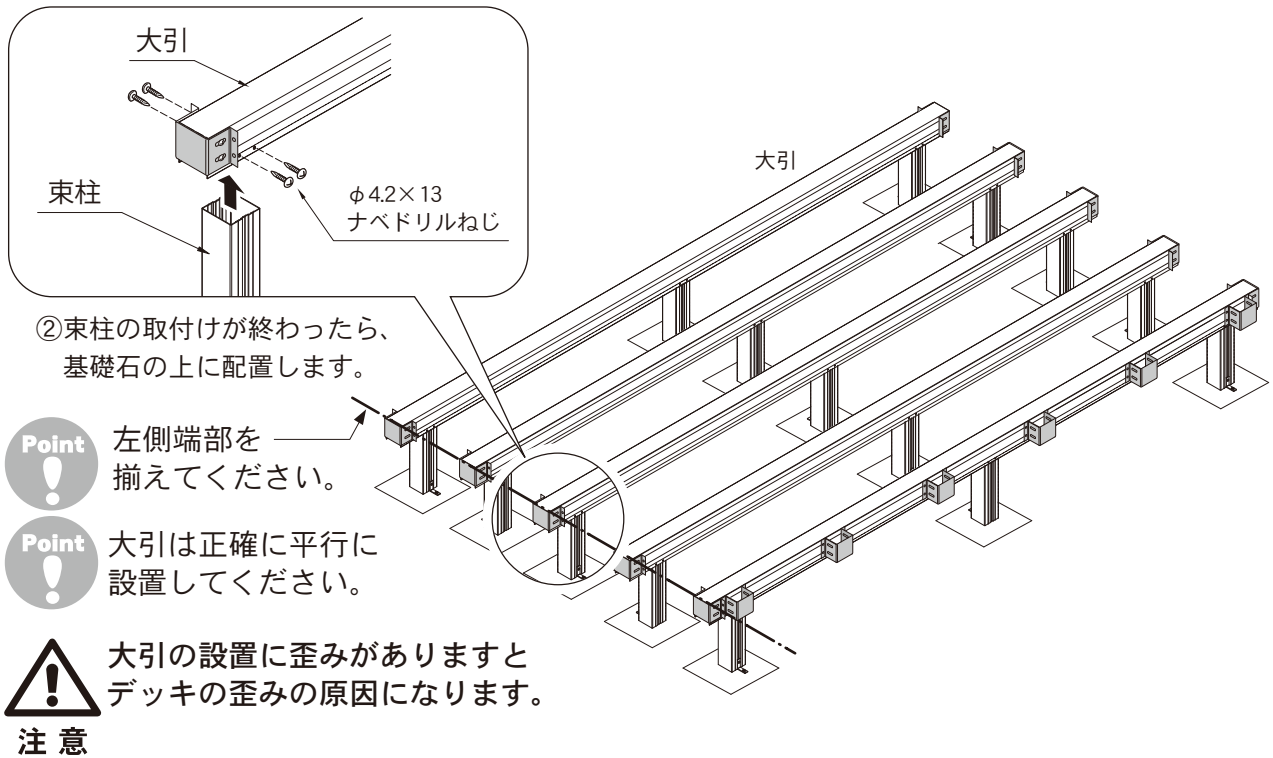
最後まで締めずにねじを緩めた状態にし、
幕板固定金具が動くようにしておきます。



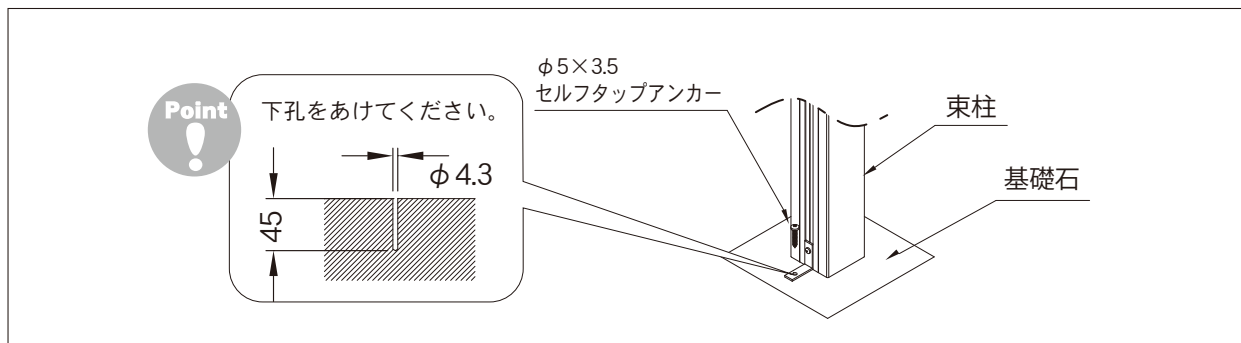
【4】束柱の取付け



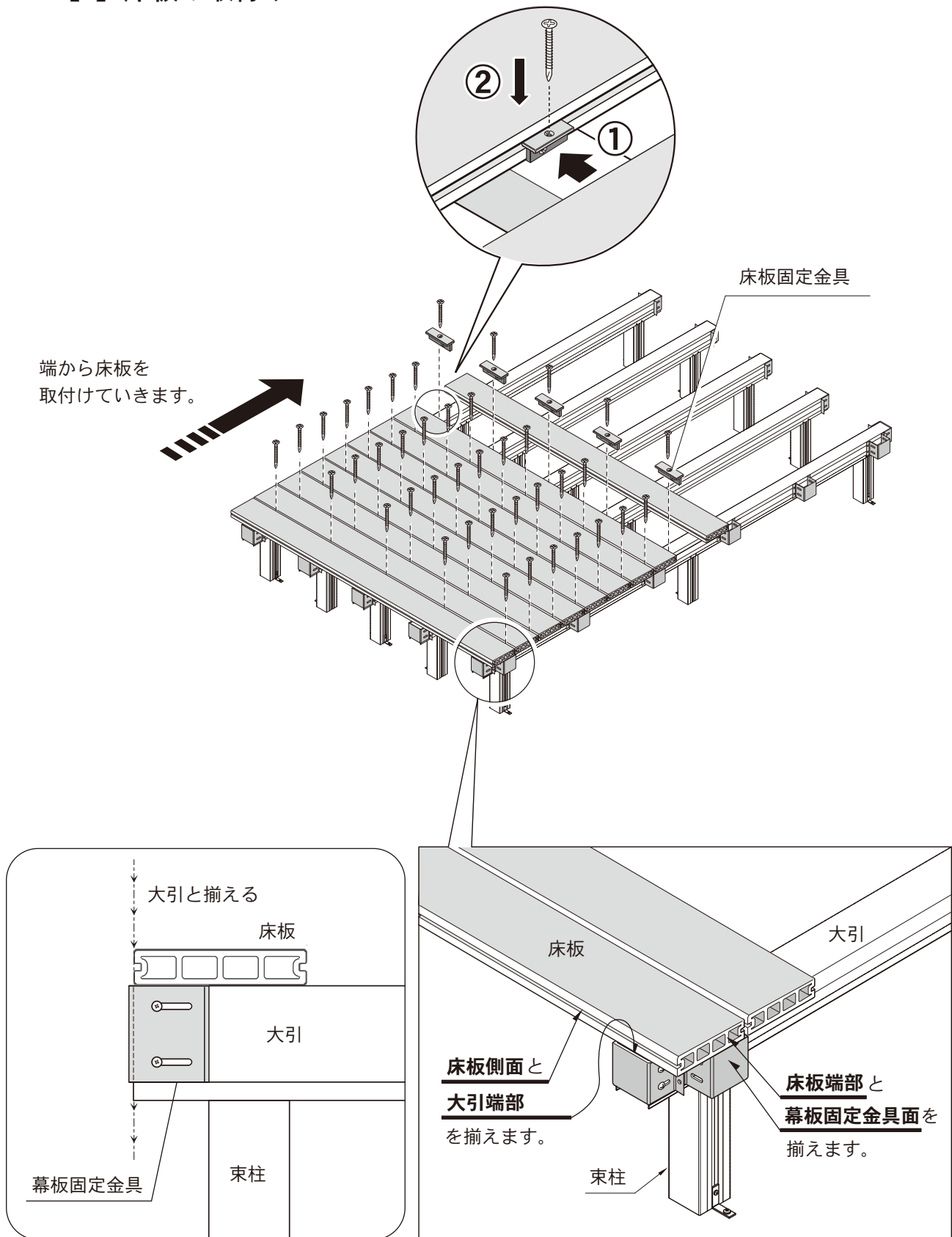
① 4～6P規格寸法図を参照して、それぞれの大引に束柱を取付けます。



【5】束柱の固定

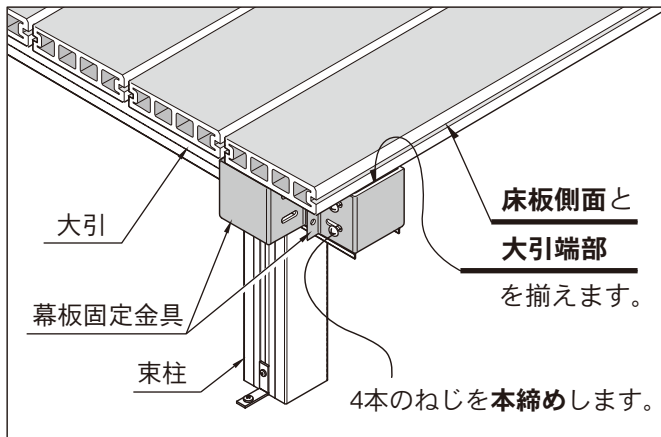


【1】床板の取付け

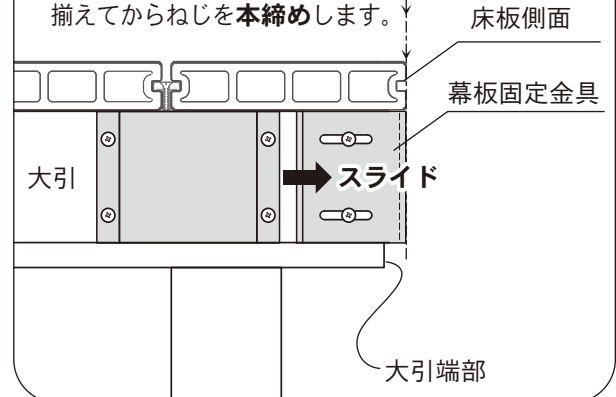


【2】最終床板の取付け

最終床板の側面を大引端部と揃えます。



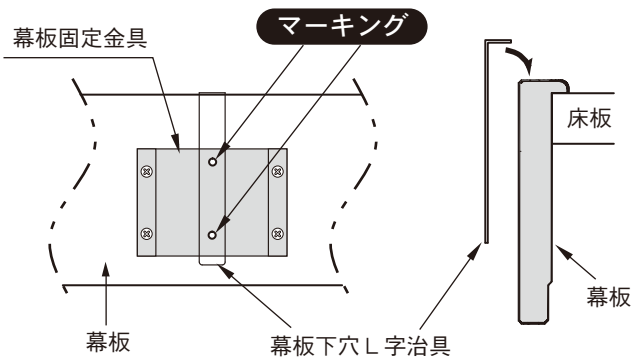
床板側面が大引端部より出る場合は幕板固定金具をスライドさせて床板側面と揃えます。揃えてからねじを本締めします。



3 幕板の施工

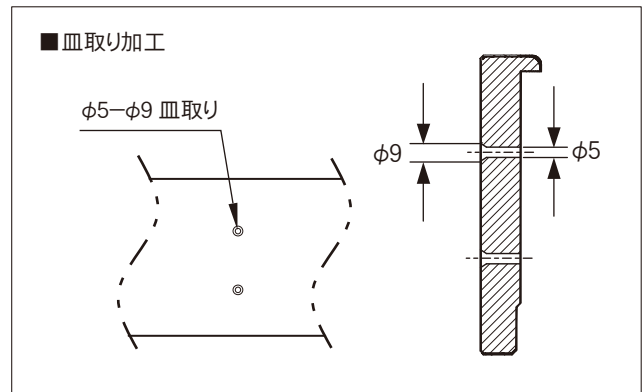
【1】幕板マーキング

幕板下穴L字治具を使いマーキングをします。



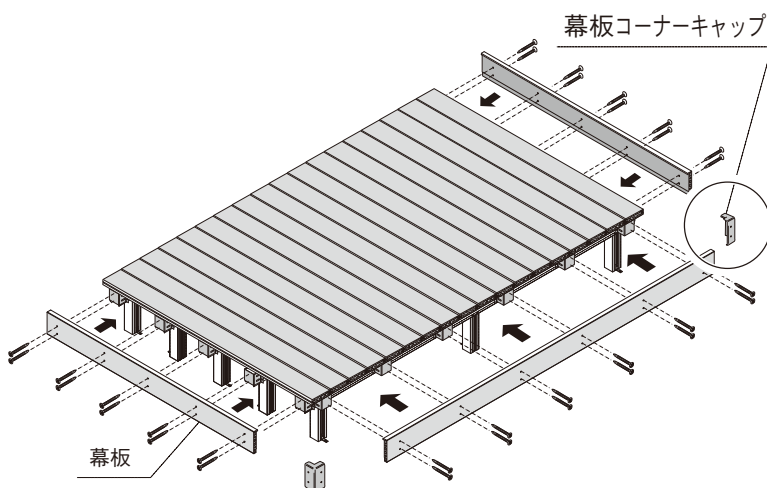
【2】幕板下穴加工

下穴加工をする際には、幕板を一旦おろして穴加工をしてください。

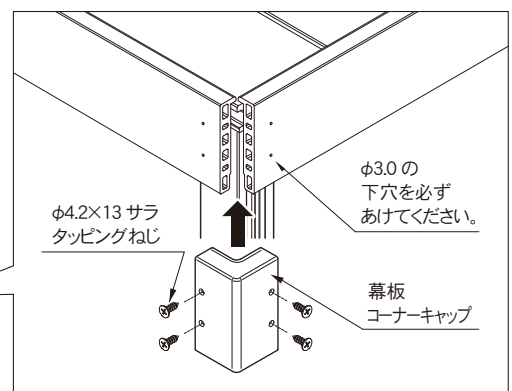


【3】幕板の取付け

下穴加工が済みましたら、幕板を取付けます。



【4】幕板コーナーキャップの取付け



完成です

■人工木材《JJ-WOOD II》特性と使用上のご注意

■加工・塗装について

本製品は通常加工(切断、穴あけ、面取りなど)であれば木材同様の工具が使用可能です。本製品を長さ方向へ切断しますと、変形する場合がございますので、そのような使用はお避けください。本製品へのペイント仕上げはお避けください。

■温度特性について

本製品は原料に使用している樹脂の特性上、周囲の温度差による影響で若干の伸縮や反りが起きることがあります。

■保管方法について

人工木材は木と樹脂の特性を合わせ持っています。商品の性質上、熱による伸縮や軟化がありますので、取り扱いにおきましては、下記のご徹底をお願いします。保管・運搬を誤りますと使用に堪えない変形や破損が生じる恐れがあります。

■衝撃について

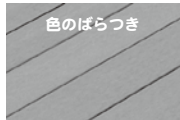
・本製品の上に重量物を落とさないようにしてください。割れやへこみ等の原因となります。・本製品表面を傘等先端の尖ったもので突かないでください。破損や変形の原因となります。・本製品に強い衝撃を与えないようにしてください。破損の原因となります。

■燃焼について

・本製品は可燃性ですので、周辺での火気の取り扱いには、十分ご注意ください。・本製品の上で焚き火などをしないでください。・本製品の上で暖房器具やパーベキューコンロ等を使用しないでください。・本製品の着火点は天然木とほぼ同じですので、天然木が燃えるような条件下では燃えてしまいます。・本製品が万が一着火、発火した場合は水散布、各種消火器にて消火してください。

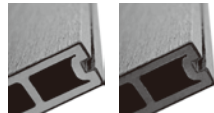
■色について

《色味》本製品は原料に木材を使用しておりますので、色のばらつきが生じることがあります。自然の色合いをそのまま生かしておりますので、部材ごとに色に濃い薄いのばらつきがあります。また、木質感の風合いをもたせるために、表面にサンディング加工をしておりますので、芝目のように本製品の長手方向に順目、逆目があります。施工後、光の当たり方や見る方向、角度により色が部分的に違って見えることがあります。



◆芯材の色の違いについて

廃プラスチックをリサイクルした素材を使用しておりますので、納入時期の違いで芯材の色に個体差が出る場合がございます。製品の仕上りや強度に違いなどはございません。



《変色》天然木に見られるように、雨や太陽光の影響により、初期にある程度の変色がありますが、その後はほとんど変化しません。《しみ》従来品に比べ、水シミが軽減しましたが、ご利用環境によりましては雨、雷、散水などにより、表面の木粉の成分が浮き出る場合がございます。乾燥するとシミの状態になります。表面を水で洗い流して、自然乾燥をしますとシミを目立たなくすることができます。《汚れの付着》表面をサンディングした際の削粉、ご使用中における表面のこすれ又は、雨や太陽光の影響により発生した粉および、表面に残った煤塵や黄砂などによる汚れが付着することがありますので、衣類、洗濯物、布団などが直接触れないようにしてください。◆この現象の対処法①衣類等へ粉が付着した場合は、クリーニング店等にご相談ください。②防止策として、デッキを使用する場合は必ず履物を履いてご使用ください。③月に1~2回程度の頻度で、柔らかい布やスポンジ等で水拭きをした後に乾拭きをしてください。

■その他の注意事項

・日中の日差しが強い時は表面が熱くなる事がありますので、歩行の際は必ず履物を履いてください。特に小さなお子様が使用されている時は十分注意してください。・本製品表面に灯油、ガソリン、有機溶剤が付着した場合はすぐに拭きとってください。変形、変色の原因となります。・本製品の上に空き缶や鉄製の物等をおいて、長時間放置しないでください。鉄の錆等でのしみができる原因となります。・重量物を置かないでください。やむを得ず短時間だけ置く場合は敷板等を上に置いて、荷重が分散するようにしてください。・本製品は製造時に発生した粉や繊維状のものが表面に残っている場合があります。天然木のささくれやトゲなどとは異なりますので、刺さったりすることはありません。

製造元



旭興進株式会社

■お手入れ方法とメンテナンス

■汚れについて

- ・汚れは使用頻度に大きく影響されます。特に工業地、海岸地域、排気ガスの多い場所ではお手入れの回数を増やしてください。
- ・汚れが付着した場合は、頑固な汚れになる前に清掃を行ってください。

■お手入れの際の注意事項

- ・ひどい汚れを落とす場合でも、強酸、強アルカリ、シンナーやベンジンなどの有機溶剤、石油類は使用しないでください。
- ・洗剤はきれいに洗い流してください。洗剤が残ると変色の原因となります。
- ・高圧洗浄機での洗浄も可能ですが、水圧によっては製品の木目加工に影響を及ぼしたり、製品表面に痕が残る場合がありますので影響の無い箇所(製品の端等)で状況を確認してからご使用ください。

■お手入れ方法

《 通常のお手入れ 》

- ・本製品についたごみや埃は、ほうき等で取り除いてください。汚れている部分は布かスポンジ、デッキブラシ等を使って、水洗いしてください。

《 汚れがひどい場合 》

- ・中性洗剤を所定の割合まで希釈し、布巾などで部材の長手方向に拭き、水で洗剤をきれいに洗い流してください。

《 定期的なお手入れ 》

- ・月に1~2回程度の頻度で、柔らかい布やスポンジ等で水拭きをした後に乾拭きしてください。

《 し み 》

- ・使用環境によって雨、雪等により、製品表面に部分的なしみが残ることがあります。

◆この現象の対処法

- ①通常のお手入れ方法で、本製品の表面のごみや埃、汚れを除去します。
- ②散水ホース等を用いて、本製品全体に表面が完全に濡れるように十分散水します。③散水終了後に自然乾燥をしますとしみを目立たなくすることができません。※製品表面に水が部分的に残っている場合は必ず乾拭きをしてください。

《 カ ビ 》

- ・カビの除去は市販のカビ取り剤をご利用ください。その際、カビ取り剤の使用法に従い十分注意して使用してください。

《 傷・こげ痕 》

- ・製品表面についた傷や焦げ痕の除去方法

- ①通常のお手入れ方法で、本製品の表面のごみや埃、汚れを除去します。
- ②傷、こげ痕部分をサンドペーパー(#24~40)で長手方向に擦り、傷、こげ痕を取り除きます。
- ③傷、こげ痕を取り除いた後、削粉を清掃します。
※初期の表面と若干異なることがありますので、お手入れ周辺を含め全体的にばかす感じで作業を行うことがポイントです。

■点検とメンテナンス

・デッキの場合

デッキ下部の水はけが悪くなることで湿度が高くなり、本製品に悪影響を及ぼす可能性がありますので《定期的なお手入れ》と併せて、年に3~4回の頻度で点検・メンテナンスを行ってください。

◆点検箇所のポイント

- ・水溜りの原因をなくすための目地、隙間、間隔が確保できているか？(目地にゴミ等が詰まっているか)
- ・下地および排水溝にゴミが溜まっていないか？
※溜まっている場合は掃除をしてください。
- ・換気が悪くなるような物が置かれていないか？

■販売店名

販売日(お引渡し日)

年

月

日